

神祇省御改革書類

附教部省建議
并章程

第十類	一冊	三冊	十函
-----	----	----	----

国立公文書館

分類

排架番号

2 A

33-9

①1082





國土羣物ヲ產育セシヨリ生々窮リナク万
 兆ノ人民無量ノ德澤ヲ蒙ラサルナク散シテ

地球上各部ニ分處シ各其國ヲ国トシ各其俗

ヲ俗トシ言語飲食衣服居室各其致ヲ一ニセス

ト雖モ各国上世立教ノ聖人出テ人性ニ順ヒ人道

ヲ修メ各教法ヲ設ケテ惡ヲ去リ善ニ歸サシム其

宗派ニ至テハ同シカラサルアリト雖モ一元ノ大始ニ遡

リ其本源ヲ考究スレハ道ノ本源天ニ出テサルナク
教ノ本體人ニ具ラサルナリ六合ノ中五族ノ民均ニ
ク良知良能ノ神主アツテ靈機活潑至誠有智識
ノ性情ヲ備ヘサルナシ只血氣ノ性アルヨリ外欲ノ
勾誘ヲ免レズ故ニ或ハ之ニ陷溺シテ先天ノ資賦ヲ
枯セシ之ヲ保存スル能ハス日ニ我カ神主ハ離隔シ
屋漏暗室ニ愧ルナキ能ハス是ニ於テ教ノ道ヲ設ケ
以テ斯血氣ヲ裁制スル法律ヲナシ斯ノ人民ヲシテ

慈愛ノ良心ヲ擴メテ奸惡邪念ヲ遏ソシム六合ノ廣キ
萬民ノ多シト雖モ其要領此歸諦ニ出テサルナシ
我

皇國ノ如キ古ヨリ天地無私ノ正道ニ體シ包含弘大
ニシテ偏狹自私ノ陋見ナク苟モ天理人道ヲ扶ク
ヘキハ万邦一視普ク之ヲ収用セサルコナリ日ニ善ニ進ム
ノ風アツテ過ヲ改ル吝ナラス凡教法中各特詣ノ處
アルニヨリ民ニ信奉ヲ許スノミナラス上ヨリ率先シテ之

ヲ勸進シ則チ支那ヨリ孔子ノ教ヲ傳ヘ印度ヨリ
叙氏ノ教ヲ傳ル如キ其教ノ

神意ニ背戾セサルハ更ニ海ノ内外ヲ問ハス収メテ
以テ我カ用ニ供ス此レ規模ノ包含弘大ナル所以
ニシテ毫モ自私ノ陋見ナキヲ證スルニ足レリ今教義ヲ
督シテ人心ヲ定メントスル包含弘大ノ規模ヲ擴メ
スシハ何ヲ以テ鉄ク其事ヲ紛紀スルヲ得ン而シテ
教法ハ民ノ好尚スル處ヲ自擇信從セシメ其政務

風俗事業ヲ害スルヲハ之ヲ查督禁止スル而已固ヨ
リ政力ヲ假リテ強ムハキノ理ナシ今神祇省ハ祭
祀宣教ヲ司ル官ト雖モ今日ニ在テ教法司督ヲ要
トセサレハ何ヲ以テ宗派ノ分異ヲ紛括シ其教義ヲ
主理シ人心ノ方向ヲ定ムルヲ得ン然ルニ今有餘年
朝野同一信奉セル教法ヲ収用セスハ包含弘大
ノ規模ヲ失フ而已ナラス抑又人心ノ歸何如ナルヲ
知ラス之ヲ防禦排撃スルニ至テハ既ニ主奴相視

敬對スルニ近ク偏狹自私ノ譏免ル可カラス故ニ
神祇省ノ規模ヲ弘大ニシ之ヲ教部省トシ全國諸
教ヲ統括シ其教律ヲ執テ以テ匪教ヲ正シ人民
ヲシテ帰向依頼スル處アラシムハシ而シテ祭祀ノ式典
ハ式部寮ニ於テ主掌スル丁至当ナレハ之ニ命シテ歲
時祀典ヲ執行セシメ教部於テ遵守スル法律條
規ノ如キハ嚴ニ之ヲ撰定シ且諸教ニ秀拔ナル学
士ヲ集置シ講論精義取捨折衷シ精愈精ヲ

求メ真愈真ヲ要シ彼我ヲ分タス内外ヲ問ハス苟
モ天理ニ符シ人情ニ合スルハ採用シテ妨ル丁ナリ
善ヲ獎メ惡ヲ懲シ改テ輔ケ風ヲ敦クスハキハ之ヲ
布告宣諭シ則我

皇祚天壤ト窮リナリ万世一系ヲ承ケ人民奉戴
服從シ其化ニ浴シ其政ヲ仰キ永世一貫ノ誠實
アルハキ道理ヲ知テ

其信スル處ニ歸シテ國體ヲ統一ナリ

我大道明義、愚民之迷、空論、書、
之、頒布、諸社寺、也、衣履、
行、遠近、也、教、法、也、訓、
、教、法、也、

皇神ノ大道、一、誠、實、以、
七、

爰ニ我

皇神国土羣物ヲ産育セシヨリ生々々々窮リナク萬國
億兆ノ人民無量ノ洪慈ヲ蒙ラサルナク散シテ地球
上各部ニ分處シ各其國ヲナシ各其俗ヲナシ言語飲食
衣服居室其致ヲ一ニセスト雖モ各國上世立教ノ聖人
出テ人性ニ順ヒ人道ヲ脩メテ各教法ヲ設ク其宗派
全ク同シカラスト雖モ一元ノ大始ニ溯リ其本源ヲ考究ス

レハ

神德無私ノ真理ニ體スルヨリ種族骨相同カララルアリ
 ト雖モ其心均シク良知良能ノ神主アリテ靈機活潑不昧ニシテ
 至誠惻怛有智識性情ヲ具ハサルナリ血氣性ハ均一ニシテ
 謫ヲ免カレ又故ニ戒ハ之ニ陷溺シテ先天ノ寶賦ヲ保存
 又此能ワヌ目ニ我神主ト離隔シ罪ヲ具々ニ得テ屋漏
 ニ慚ルヲ免レヌ是ニ於テ教法ノ設分已ヲ得ヌシテ個ノ
 血氣ヲ裁割スル法律ヲナシ斯人民ヲシテ慈愛ノ心ヲ
 擴メテ奸惡ノ邪念ヲ遏メシム宇宙ノ廣ク羣生ノ多シト

惟天曾此歸歸出テカニセサルナリ我

皇國ノ如キ天地無私ノ正道ニ基キ包含濶大ニシテ偏
 狹自私ノ陋見ナク苟モ天理入道ヲ狀ハハキハ弘ク之ヲ
 採用セザルナク用ニ善ニ進ムノ風ヤリテ教法中各將歸リ
 處アルハ民ノ自擇ニ任セテ其信奉スル處カ自在ナリシメ法
 制ニ拘テ之ヲ散テ拘束スルナシ故ニ支那ヨリ孔子教ヲ傳ヘ
 印度ヨリ釈教ノ教ヲ傳ヘ我
 神道ト並行セシムルハ其教ノ本源皆我

皇神ノ神意ニ背戾セス能ク其道ヲ扶ケテ民ヲ教訓
スルニ足ルヲ以テ更ニ海ノ内外ヲ問フス此レ皇國ノ規模弘
大無私ナル處ニシテ真ニ六合ヲ一視スル宏謨ト云ヘシ西
洋教法ノ如キ昔時葡萄牙人^{専ラ也}東洋^{ニシテ}招徠ノ際兜
匪教ヲ傳播シテ我邊民ヲ誑誘シ不良ノ所業ヲ
ルヲ以テ痛ク之ヲ禁ヒシヨリ其教ノ^{其真ヲ}邪誕ナル^{其真ヲ}
證左ヲナサスシテ只之ヲ邪教トシ其禁ヲ犯シテ其教
ヲ奉スルモノハ之ヲ邪宗凌トシ之ヲ罰スルトナリ爾來

其本ヲ究ミ其理ヲ盡サス

國禁トナリタレトモ竟ニ其由來スルノ条理僅ニ當時我邊民
ヲ誑誘凌虐セシ葡國兜徒ノ伎倆ヲ懲リシヨリ外ナル
ナシ今其弊ヲ受シ教百年前ノ法ヲ以テ^{人智}既^ニ開化ニ至
ル現今ニ株守スルハ甚タ謂レナキ而已ナラス^其株
目人ニ自擇信奉スルノ事ヲ壓制シテ許サシメサル法ヲ存
シ弘ク善ヲ操ル弘大無私ノ道ニ悖レリ如何トナレハ彼洋
教ノ如キ釋教ノ一派ニシテ其本源ヲ推ス我

皇神ノ道ニ基カサルナリ立教ノ聖人其名ヲ異ニシ宗派

ノ法説同シカラスト雖玉其歸歸ヲ要スルニ道ノ本原

失ニ出テサルナリ其教及ノ本心體恩善ヲ勸何惡ヲ懲サレナリ

其上帝ニ昭事スルヨリ忠孝慈愛ヲ以テ工夫トシ

遷善改過ヲ入門トシ懺悔滌除ヲ進修トシ生

天真福ヲ作善ノ榮賞トシ地獄永殃ヲ作惡ノ苦報

トシ人ヲシテ善ヲ為ス必ス真ニ惡ヲ去ル必ス盡シムル

一切ノ戒訓規條皆天理人情ノ至ニシテ風ヲ湧リ化ヲ

害スルヲ改テ素リ法ヲ犯スニ非ス也ヲ惑シ人ヲ盡ス

ルニ如ク羣ヲ聚メ乱ヲ作スニ非ス且其道漸ク前進

シ其教漸ク修善シ樂みより善ヲ修ム曩時荀園東畧ヲ測ル時尙

得昇行ヲ遂ニセシ如クナラサルハ固ヨリ昭々タリサレハ

開化ノ今日ニ於テハ此ノ教法ニ後ハント欲スル者アラハ之ヲ

寛恕ニシ自擇ニ任セテ信セシムルモ固ヨリ不可ナルナカ

ルハ抑神祇省ハ朝廷祭祀ヲ掌ル官ト雖モ今日ニ在

テハ專ラ教法司督ニ關係セスハ何ヲ以テ宗派ノ分

異ヲ一統シ其教義ヲ主智スルヲ得ン而ルニ千有餘年

新邦開野田一尊
オノヲ誓シスル已ニ奉セル孔教ニ教ヲ収用涉帝セス
ハ包容取善ノ義ヲ失ヒ或ハ之ヲ妙如トシ置テ問ハサ
レハ六司智ノ道ヲ欠ク之ヲ非議シテ容レサルニ至ツテハ主
奴敵待ノ爭論ヲ免レスシテ却ラ其教義ノ弘カラレ
ヲホスニ是ル抑モ政權ヲ以テ其教法ヲ施サントスルハ
固ヨリ道理ノ^{ナキ事ニテ}金^{ナキ事ニテ}非^{ナキ事ニテ}到底^{到底}如^如應^應檀^檀ノ政治ヲ免
レサル也ナラス我^我後^後前^前包容無私ノ正道ニ背戻ス故
ニ神祇省於テ司ル我^我因^因且^且祭祀式典都テ式部寮

ニ合併シ更ニ智教事務局ヲ置キ神釋ヲ統ヘ一切
ノ教法ヲ司智シ其信從尊奉ハ寛恕ヲ旨トシ自由
ナラシムヘシ而シテ其法憲條規ハ整然設立シ其世ヲ
惑シ人ヲ益シ風ヲ傷リ政ヲ害スル事^事且^且至^至ツテ之ヲ
嚴ニ制^禁シテ後^後能^能掃括スル所アラシムヘシ且^且其事務局
^{教會ヲ設ケテ官ハ典ヲ奉ル}廣ク衆說ヲ聴細シ法教ニ秀拔ナル^{集會シテ}學士ヲ置キ
諸論精義各自特詣ノ處ヲ明辨餘折シ弊ヲ去リ
精ヲ求メ彼我ヲ分タス内外ヲ問ワス天理ニ符シ人^情

適スルハ之ヲ妨害スルヲナリ善ヲ獎ミ惡ヲ去ルハキハ採
擇^{納用}ス改ヲ輔ケ風ヲ敦クスヘキハ^{之ヲ}刊布播傳セシメ
則我

皇祚天懷ト窮リナク万世ニ系ミシテ人民奉戴奉仕
其化ニ浴シ其政ニ及ヒ永世依頼シ渝ラサル誠實ノ心
アルヘキハ我人民タルモノ誰カ曉知セサシ然リト雖モ或ハ
周知ヲ知ラス其信スル處ニ癉シテ之ヲ悞ルヲナカラシメ
ン為メ其大道明義ハ俚俗愚騷^曉モ覺發^曉シヤスカラ

シムル論誨ノ文ヲ頒布^{スルヲ許}諸宗ニ之ヲ根據トシ
遵奉説明セシメハ教法愈真ニシテ訓導愈正シ
リ教契日ニ玄テ教益日ニ多ク文離ノ宗派ヲ一統
シ今皇ノ教法ヲ合一シ盡ク我カ

皇神ノ大道ニ歸^シシメ維一ノ誠六合ヲ包括スルニ至ル
一ニ

教部省職制

全國社寺ノ事務ヲ統理シ教律ヲ正シ教義ヲ
督スルヲ掌ル

卿 一員

本省及本寮一切ノ事務ヲ總判シ其諸官
員ヲ統率スルヲ掌ル

大輔 一員

卿ヲ補ケテ共ニ其事務ヲ調理スルヲ掌ル

少輔

職掌大輔ニ同シ

以上教任官

大丞 二員

卿輔ノ命ニ從テ省中各課ノ事ヲ管理
シ寮中ノ事務ヲ通知スルヲ掌ル

少丞 二員

職掌大丞ニ同シ

大監

少監

教律ヲ監守シ教義ヲ監視スルヲ掌ル
大録

権大録

中録

権中録

少録

権少録

明教ノ意諸教義ヲ講究シテ帰歸ノ一尤ヲ
明ニシ堂同代異ノ弊ナカラシメ混同和熟セシ
ムルヲ要ス

教説ヲ審査

スルヲ掌ル

以上教任官

大丞 二員

卿輔ノ命ニ從テ省中各課ノ事ヲ管理
シ寮中ノ事務ヲ通知スルヲ掌ル

少丞 二員

職掌大丞ニ同シ

大監

少監

教律ヲ監守シ教義ヲ監視スルヲ掌ル

大録

権大録

中録

権中録

少録

権少録

史生

○

明教寮

全國社寺ノ教義ヲ講明シ教説ヲ稽查
スルヲ掌ル

頭

一員

寮中一切ノ事務ヲ司督管理スルヲ掌

ル

権頭

一員

職掌頭ニ由ク

助

寮中分局分課ノ事務ヲ擔當スルヲ掌

ル

権助

職掌助ニ由ク

大層

権大層

中層

権中層

少層

権少層

○

大博士

中博士

少博士

教義ヲ講明シ教詔ヲ警査スルヲ掌ル

大講義生

中講義生

少講義生

講義生

○

諸博士諸講義生ハ允テ各教博學多識ノモノヲ精擇シテ之ニ任ス

卿以下官負博士講義生ヨリ等級ニ應シ陞

條々

全國諸派ノ教徒ヲ限時集會セシメ教義ヲ討論羣議セシメ其說ヲ公定シ頒布スヘキハ之ヲ其徒ニ分ツテ宣布セシム

集會羣議ノ節其學術知識板羣ノモノヲ公撰シテ其實ヲ試驗シテ後之ヲ登用ス

集會ハ全國社寺ヨリ其派ノ惣代ヲ公撰シ一縣一員宛限時明教寮ニ出シテ會議セシム

教義ニ關係スル書說ハ允テ此首ノ許允ヲ得サレハ上梓頒告スルヲ許サス

一 凡ソ教義ヲ講シ及ヒ講社中ヲ結フモノ此省ノ
免許ナケレハ教ヲ講シ講社ヲ結フヲ許サ
ス

一 明教案中刊行記録課ヲ置キ凡ソ一般布
告宣達スル書説ヲ上梓刊布ス

一 諸教義ニ関スル羣書ヲ彙聚シテ考據引
證ニ供ス

一 祭事祀典ニ属スル事務ハ一切式部寮ノ管
理ニ歸スヘシ

一 祠官僧侶ノ位階等級ヲ更定シ其事ヲ司

掌ス

一 省中寮中及集會ノ諸章程ヲ撰定スヘシ
且教律ヲ監シ教義ヲ監スルノ方法モ設ク
ヤルヘカラス

一 教律ヲ定メテ司法ノ律ニ補入スヘシ

一 凡ソ教義ヲ講シ及ヒ講社中ヲ結フモノ此省ノ
免許ナケレハ教ヲ講シ講社ヲ結フヲ許サ
ス

神祇省被廢更ニ教部省被置候事

月日

左改官

教部省職制左ノ通候事

掌統全國社寺事務正教律督教義

月日

左改官

神祇省

是省被廢候事

但諸官實^ハ當今事務取扱可申事

左政官

元神祿省

其省事務祀典關係ノ多^ク式部寮ニ宣教
關係ノ多^ク教部省ニ引渡^ス事

月日

左政官

式部寮

祭事祀典身^ハ其寮於^テ可執行事

月日

左政官

恭
ミク惟
ミルニ

天御中主神ハ開元造化ノ主神ニシテ

天照太神ハ我

皇上ノ祖神爾來數千百年 皇統連綿絶ヘス

シテ今日ニ至ルハ是我國體ノ萬邦ニ卓絶スル

所以ナリ今ヤ太政官及ヒ諸省諸府縣ヲ置キ百

般ノ事務大小分課アリ各其功ヲ奏スト雖凡獨

憾ラクハ國體ヲ正フニ君臣ノ義ヲ明カニモ教
化ヲ敷フスルノ道ニ於テ恐クハ未ダ其精ヲ盡
サバル者アルニ似タリ夫レ戊辰以來政令屢變
シ藩ヲ廢シ縣ヲ併スル等ノ大改革ニ及フト雖
モ衆庶敢テ妄リニ違背スル者ナシ是レ
天照太神ノ威靈萬世ニ亘ツテ衰ハス加之
皇上親シク忠孝ノ大道ニ基キ
祖宗ノ神德ヲ繼承シ給フノ然ラシムル所ナリ

伏テ惟ミレハ三種ノ神器ハ則

天照太神ノ親シク皇孫ニ授ケ給フ至重ノ神器

ナレハ宜シク之レヲ悉ク宮中ニ安置シ奉リ

皇上親シク齋祀ニ管シ宗廟社稷ヲ敬重シ給フ

丁是レ即今ノ要道ト奉存候因テ其條件ヲ掲ル

丁尤ノ如シ

一 天照太神ノ神殿ヲ禁城ノ中央ニ造立シ國

家ノ大事ハ神前ニ於テ議定スヘキ事

伊勢神廟ニ安置シ奉ル所ノ神鏡ヲ宮中
移シ奉ル三種ノ神器合一ニシテ

天照大神ノ神勅ニ基ツクハキ事

齋祀ハ

皇上親シク百官ト共ニ之レニ管ニ式部寮
ヲ以テ祭享ノ禮式ヲ掌判セシムハキ事

文武官員拝任ノ日ハ必ス神殿ニ并謁シテ
誓文ヲ奉リ神教ヲ重ニシテ

皇室ト共ニ國民ヲ保安スルノ誠心ヲ表セ
シムベキ事

一 教部省ヲ置キ道學ニ屬スル在來ノ諸教道
ノ事務ヲ總管セシメ神教及ヒ儒佛共各教
正ヲ置キ生徒ヲ教育シ人民ヲ善導セシム
ハシ凡中外ノ宗門甚タ多クシテ其邪正ヲ
取捨スルハ至テ重事トス然ルニ宗教ヲ導
率ニ一家一身ヲ托シ祈ルハ彼我共ニ免レ

ナルノ民情ナリ故ニ我政府ヨリ設ケ置ク
所ノ法律ニ違犯スルノ宗教アラハ断然之
レヲ裁除スルノ權力有ラシムヘキ事
天御中主神ヲ以テ閑元造化ノ主神トシ
天照太神ヲ以テ

皇上萬世ノ元祖ト仰キ奉ルベキヲ

共和政治ノ学ヲ講シ國脉ヲ蔑視シ新教ヲ
主張シ民心ヲ煽動スル類同々或ハ之レ有

リ抑我帝國ノ権力他ノ國體ト比較シテ
之ヲ議スルヲ得ス後在或ハ

祖宗ノ神靈ヲ誤リ認テ教法主ト看做サシ
トヲ恐ル是レ教部省ヲ置ク所以ナリ

一 教部省職制左ノ如シ

卿

諸教法ヲ統管スル事ヲ掌ル

大少輔

大少丞以下ノ職掌諸省ニ准ス

神教儒教又佛教ハ數種アレハ一宗毎ニ
之ヲ分テ各自教化ノ多少ニ准シテ四等
ノ教正ヲ置クヘシ

大教正 初任 一教一人或ハ一宗一人

權大教正 奏任 同

教正 同 同

權教正 同 同

右所管ノ教徒學問ノ勤怠及ヒ進退ヲ糾

判スル事ヲ掌ル

以下ノ官負モ適宜ニ設ケ置レテ得業ノ教
徒ヲ撰任シ教化ヲ掌ラシムヘシ

右審議上陳

辛未十二月廿二日

左院

恭惟ニ

神祇ヲ欽仰スルハ治国ノ根柢ニシテ教化ノ精
神ナリ故ニ之ニ古ヌルヤ崇スルニ禮ヲ以テレ敬スルニ
道ヲ以テス禮トハ何ソヤ尊貴モ身ヲ屈シ
テ其靈徳ヲ畏懼シ真心以テ其依頼ヲ表ス
ルニアリ道トハ何ソヤ人々此生命ヲ得ル所以
ノ大原ヲ辨知シ其本ニ敦ク始ニ反リテ古々
天ニ意ニ報セントスルニアリ方今ニ萬機維新億兆

振興各其能ヲ致シカヲ竭ス國家ノ隆盛
實ニ未嘗有ト謂フベシ是
聖上輔宰率先勉勵ノナス所ト雖其由
所實ニ

天神

皇祖ノ神謨中ニ出ツ創業垂統ノ始ヨリ
威靈憑ルニ至偶然僥倖ノ致スベキ非ス大
賚至恩豈淺ク感銘セサルベキヤ今テ之ヲ追思

之ニ報答スルノ道ハ

皇太神宮ヲ大ニ敬スルニアリ又

列聖ノ靈ヲ敬スルニアリ

列聖ノ靈ヲ敬スルハ其聖蹟ヲ明カニシ

絶タルヲ續キ慶シタルヲ興スニアリト云ヘバ

尚其時運ヲ察シ旧新其宜ニキヲ計リテ

將來不抜ノ良圖ヲ期シ治国安民善術

ヲ尽シ真ニ

皇國ノ

皇國タルニ天光明ノ旨致ラ目途トシテ

以テ多ク改教化至ラサル所ナカラムニアリ

皇祖聖ノ祭祀ハ既ニ其緒ヲ開ケリ尚皇子

皇孫其系ヲ承継シテ有矣ニ萬世ニ姓タル

皇統ノ大義ヲ凜然タラシムベク方今最

急務ナリ

皇太神宮ヲ敬スル道ヲ教化宣布ノ古又謹

テ左ニ陳ス

日本書紀曰

天照大神乃賜天津彦彦火瓊杵尊ニ瓊曲

玉及八咫鏡草薙劍三種寶物因勅皇孫曰

葦原千五百秋之瑞穗國是吾子孫可王

之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之

隆當與天壤無窮者矣又

天照大神手持寶鏡授天孫穗耳尊而祝

之五兒視此寶鏡當猶視吾可與同
床共殿以為齋鏡

如此

詔ヲシ玉ヒテヨリ御代々々ノ

天皇同殿内ニ齋奉リ玉ヒシヲ

崇神天皇ニ至リテ同殿ニ坐スヲ畏ニ

思ハレ別ニ鏡劍ヲ模造セシメ玉ヒ神代ノ

靈器ハ皇女豐玉鉏入姫命ヲシテ大和國立

縫邑ニ移レ奉ラシメ玉ヒ

聖仁天皇ノ二十五年今ノ伊勢國產金郡

五十鈴川上ニ鎮座マシム其後御劍ハ

皇行天皇ノ御代ニ白皇子日本武尊東征

時倭比賣命ヨリ賜ヒテ凱旋ノ後尾張國

ニ留メ置玉ヒシヨリ今ノ熱田ニ鎮座マシム

殆ト二十年ノ久シキ

天祖威靈ノ憑ル處照然タリ時ニ汚隆アリト

雖

列聖敬養億兆之ヲ尊崇ス是我國體

ノ尊嚴ナル固ヨリ言ヲ待ズテヤ

聖上東京ニ臨御シ玉ヒ專ラ敬神大典

ヲ四海ニ表示シ玉フノ時ニ方リテ威靈赫々

天祖手授ノ神器依然百里外ニ宗祀ニ常

典毎ニ西ニ向テ

御遙拜アラセラル豈今日ノ大闢曲ナラズヤ

仰キ願ハクハ前途ノ形勢ヲ御洞察アラセラ

レ非常ノ

宸斷ヲ以テ

皇太神宮熱田ノ御神體ヲ間近ク御遷

座歳時ノ常典

聖上御親祭孝教ノ

宸衷ヲ尽ミサセラレナバ四海ノ廣キ

天祖德澤ノ隆今日ニ波洽シ億兆各觀感

興起自^ラ上^ニ能ハズ維新ノ至治隨テ徧
カルベク實ニ千歳ノ時失フベカラサル機會
謂フベシ

教化宣布ノハ既ニ宣敎使ノ設アリトイヘ
其教化スル處ノ方法未タ確實ナラズ速ニ
的當ノ人員ヲ再選シ且職ヲ授ケ其方
約定シ其責任ヲ詳明シ兆民ヲ徧ク教導
スル所以ノ道ヲ曲尽セシメラルベシ其方法中ニハ

聖上百官其信スル所ヲ明カニシ其重ニスル所
詳カニシテ嚮フ處即下ノ習フ處億兆ヲ
シテ其方^向法ヲ一ニスルニ足ラレタル義アルベシニ
ハ人生其由ル所ノ旨帰ヲ詳ニシ其依頼
シテ死生不惑ナラレムル處ノ徳ヲ辨シ博ク
説キ厚ク導クニアルベシ又從來名帰信
スル所ノ説アリ善ク之ヲ糾シ而テ誘キ邪ヲ
閑キ畢ク見本ニ石子クサヲ重スルノ本心ヲ

擴充セシメ偏陋固滞ノ舊見ヲ洗ヒ正大
自奮ノ志業ニ趨カシムルニアルベシ

右謹テ

皇太神宮ヲ崇敬スルノ新典ヲ陳シ并テ
教化ヲ論ス且是等政並行ノ大端人心帰
嚮ノ樞機忽カセニスバカラサル處也其緩急
順序ニ至リテハ基本確定ノ上更ニ明旨
ヲ取ラントス伏乞

聖断

壬申三月廿二日

神祇少輔福羽義靜
神祇少輔川脇重績
神祇少丞戸田忠至
神祇少丞澤簡徳
神祇少丞天野正世
少寺出仕醍醐忠敬

七等出仕青山景通
七等出仕三田保光

大教之旨要別紙之通被 仰出ル条篤
御趣意ヲ奉体ニ宣布可致事

別紙

大教ノ旨要、神明ヲ敬シ人倫ヲ明ニ億兆
ヲシテ其心ヲ正クシ其職ヲ効シ以テ 朝廷ニ
奉事セシムルニアリ 教ノ以テ之ヲ導クナケレハ
其心ヲ正クスルコト能ハス 政ノ以テ之ヲ治ムルコト

ナケレハ其職ヲ効スヲ能ハス是教ト改ト相
渾テ行ハル所以ナリ今ヤ更始ノ時ニ方リ
神武天皇鴻業ヲ創造シ玉ヒ 崇神天皇
四方ヲ經營シ玉フ 御偉績ニ基セラレ時ニ因テ
宜ヲ制シ大ニ変革更張被遊候處大教ノ
未タ浹洽ナラサルヨリ民心一ナラス其方向ニ惑
フ是宣教ノ急務ナル所以ナリ夫人ハ萬物ノ
靈神明最モ惠顧シ玉フ所ノ者ナリ 天孫

皇太神ノ勅ヲ奉シ斯土ニ君臨シ之ヲ撫字
シ玉ヒレヨリ 列皇相承亦皆 太神ノ心
ヲ以テ心トナシ玉ハサルハナシ然而シテ太政ノ
変更スル所アル者ハ世ニ古今アリ時ニ汚隆ア
ルヲ以テノミテ元ヨリ斯民ヲシテ其心ヲ正ク
シ其職ヲ効シ以テ昏迷ヲ解キ終始仰ラ
依ル所ヲ知ラシメント期シ玉フハ 前聖後聖
其揆一也故ニ大教ヲ宣布スル者誠能ク斯旨

ヲ体認レ人情ヲ省テ之ヲ調攝シ風俗ヲ察
ミテ之ヲ提撕シ之ヲシテ感發奮興ニ神賦
ノ智識ヲ開キ人倫ノ大道ヲ明ニ神明ヲ
敬シ其惠顧ノ洪恩ニ負カス 聖朝愛撫
ノ威旨ヲ戴キ以テ維新ノ隆治ニ歸向セ
シムベク候是政教一致ノ御趣意候事

己巳ノ年

五月二十一日

東下問書寫

我 皇國 天神 天祖極ヲ立

基ヲ開キ給ヒシヨリ 列聖相承天工

代リ天職ヲ治ノ祭政維一上下同心治

教上ニ明ニシテ風俗下ニ養シク 皇道

昭々萬國ニ卓越ス然ルニ中世以降人

心偷薄外教_{コレニ乗レ} 皇道_ノ陸夷
終_ニ迫_ル時_ノ甚_{キニ至ル} 天運循環今日維新
時_ニ及_{ヘリ}然_レ凡_レ紀綱未_レ夕_ニ恢張_セス_ニ治教
未_レ夕_ニ浹洽_{ナラ}ス_ニ是_レ 皇道_ノ昭_ハナ_ラサ
ル_ニ由_{トコロト}深_ク 御苦慮被_レ為_ル游_今
度祭政一致 天祖以來固有_之
皇道復興被_レ為_ル在億兆_ノ蒼生報_本反
始_之義_ヲ重_レ敢_テ外_ニ誘_ニ盡惑_{セラ}レ_ス方

嚮一定_ニ治教浹洽候様被_レ為_ル游_後
思食候其施_為之_方各意見無忌憚
可申出事

關國寺院ヲ管轄スル一官ヲ置キ數十
万ノ僧徒ヲ提醒シ噉肉畜妻皆綱常彝
倫ニ本ツキ人間ノ實用ヲ以テ億兆ヲ
風誘シ益々皇政ヲ翼賛セシメン
ヲ請フ

塊然タル一地球ノ運轉スルヤ戴ク所ヲ以
テ天トシ踏ム所ヲ以テ地トナス而シテ其
正徧向背ニ隨テ日月ノ照臨寒暄ノ變更自
ラ齊シカラス國風民俗亦之ニ隨フ然シテ
國トシテ教法ナキハ無シ其教タルヤ國風

民俗ニ由テ亦異ナラサル能ハスト雖モ要
ハ勸善懲惡民心ヲ維持シ國勢ヲ富強ニス
ルニ在ル而已然ラハ則チ教法也者ハ國家
以テ一日モ忽ニス可ラサル者ナリ西洋各
國國勢富強民心一定日ニ文明開化ノ域ニ
進ム所以ノ者ハ政教并ニ行レテ相成ラサ
レハ也 皇國ハ神道ヲ以テ建國ノ基礎ト
ス 大政維新益以テ宣教ヲ嚴ニセシヨリ
苟モ眼ニ丁字有ル者ハ祭教一致ノ欽旨ヲ
感戴セサルハ無シ然ルニ蚩々ノ愚民ニ至

テハ 神祇ヲ畏敬スルヲ從前ニ倍スト雖
モ風習未タ除カス身後ノ歸着ニ惑迷スル
ニ似タリ故ニ遽ニ之ヲ提醒セント欲スレ
ハ一時方向ヲ失フ者ノ如ク恐クハ安撫ノ
路無カラシ且ツ方今異教駁々乎トシテ入
ラントスルノ勢アリ若シ其勢ヲ制セス一
旦禁ヲ弛フスルヲ有レハ彼レニ二三ノ教
派有リ皆爭フテ先入セント欲メ百方之ヲ
誘導セン歟生民何レニ適從スルヲ知ラ
ス其弊終ニ國害ヲ爲スニ到ラン是亦遠慮

セスンハ有ル可ラス然則姑ク盲俗愚民ノ
依信スル釋徒ヲシテ斷然其法則ヲ更張セ
シメ先ツ其徒ノ墨守スル拘法ヲ一洗シ勉
テ牽強附會妄ニ罪福ヲ說ノ陋習ヲ脱洒シ
國體ニ本ツキ人情ニ切ニ博ク宇内ノ形勢
ニ注眼シ今日ノ事務ニ實着ナラシメ自ラ
游民素餐ノ弊ヲ矯メ勞ニ衣シ力ニ食シ
朝意所嚮ノ真政ヲ奉體シ庶民ニ教ルニ國
體名分綱常彝倫其產業ヲ保全シ共ニ闔國
ノ公利ヲ謀リ人智ヲ擴充シ富強ニ臻ルノ

目的ヲ以テ戸說人諭シ終ニ皇國固有ノ
神道ニ復歸セシメン如是則ハ祭教一致國
勢富強ノ域ニ臻ラン而ノ異教亦由テ入ル
ノ罅隙無ラン故ニ今日ノ急務先ツ其徒ノ
陋習ヲ洗除シ之ヲ一定スルニ在リ然ラス
ンハ其徒從來ノ陋習ヲ逞シ所謂封建ノ政
ノ如ク人心一定セス一定セサルノ教ヲ以
テ民心ヲ一定セント欲ス亦不難哉只冀ク
ハ朝廷速ニ一官ヲ置キ其徒ヲ管轄シ法
則六條ノ立テ之ヲ唱導セシメ上ハ國體ヲ

翼賛ニ下ハ民心ヲ安着セシノニ嗚呼 皇
政今日百廢皆興ノ秋ニシテ獨此一舉無キ
ハ豈闕典ト謂ハサル可ケンヤ

辛未冬十月 臣 清涼寺雪爪

法則

明辨國體 畏敬神祇 說諭倫理
防禦異教 擴充智識 開導利用

餘論二則

天地ノ人身ニ賦稟スルヤ四支百骸一トノ
用ナキハ無シ而陰陽ノ兩具ニ至テハ万物
生々ノ機械ニノ縱令盲聾跛瘂ノ者ト雖モ
亦盲聾跛瘂ノ子ヲ産セス嗟萬物ノ靈タル
人トノ此機械ヲ廢却スルハ天地化育ノ意
ニ戾レリ若シ之ヲ抑制スルモ亦人道ニ乖
背ス是喋々論ヲ待サルナリ然ニ釋門ノ規
則天機ヲ閉塞シ人道ヲ遮斷シ自ラ形骸ヲ
土木トナシ以テ修觀ス是レ遐遠高妙ナラ

明蓮寺信堂

サルニ非ス然に畢竟天理ニ背違シ人情ヲ
抑制スル法則ニメ豈高識卓觀ノ人ノ爲ニ
設ル者ナランヤ夫僧モ亦人ニメ自ラ天機
ノ活潑人情ノ感觸アレハ陽ニ守リ陰ニ破
リ自他ヲ欺ムキ天鑒ヲ蔑如シ抗顏宗師タ
ル者尠シトセス是レ名實相副ハス風俗ヲ
汚深スルノ甚シキ者ニ非スヤ是故ニ生民
ヲ教誘スルヤ先ツ自ラ天意人情ニ本ヲサ
レハ只高遠ニ馳セテ親切ナラス親切ナラ
サル則ハ民ノ依信ヲ得ス民ノ依信ヲ得サ

レハ異教ヲ防禦シ國體ヲ維持スルノ術ニ
非ス今僧徒ノ中テ此ニ見アル者アリト雖
モ唯官制拘法ニ羈縻セラレ進步スルヲ能
ハサル也此氣運ニ膺テ若シ天機ヲ開暢セ
シメハ即チ天地生成ノ意ニ契ヒ人民智識
ノ路ヲ開カン果メ如此トキハ其徒自ラ遊
手ヲ恥テ嚮ニ方向ヲ失シ墮敗スル者モ忽
チ起死回生ノ思ヲナシ 皇政ノ至隆ニ悅
服セン

又

明蓮寺に雲

方今之急務ハ上ニ論スル如ク先ツ僧徒ヲ
提醒シ民情ヲ安着シ以テ國體ヲ維持セシ
ムルニ在リ然ト雖モ彼レヲ知り已レヲ知
ラサレバ其道備ラス依テ僧徒ノ頑ヲ變ノ
智識ヲ開カシメント欲ス諸派ヨリ其巨擘
ノ者ヲ撰ミ大小其派ノ寺院ニ課金シ取テ
民ニ勸財セシメス各々無用之費ヲ省カシ
メ以テ資ト成シ之ヲノ西洋各國ノ形勢ヲ
歴覽セシムルニ在リ而ルニ僧ナル者ハ平
素山居巖栖ニ過陰シ或ハ高堂大廈ニ憊眠
シ世態時務ヲ知ラス遊素之淵藪トナリ弊
害少カラス實ニ國家ノ蠹賊ト云ヘシ一旦
朝廷雷霆ノ開誘ヲ得サレハ醒覺決起ノ氣
魄ヲ張ルヲ能ハス依テ僧侶ヲ諭シテ洋行
ノ令ヲ下サンヲ伏乞ヒ奉ル

中朝以前 烈聖皆佛教ヲ崇信シ玉ヒ
シヨリ海内ノ僧侶幾十万人不織シテ衣
不耕シテ食ス高厚大屋ニ棲シ莊園田
圃ヲ領シ空門ノ徒却テ居然門流ヲナシ
爭氣ヲ逞ス且近世天草ノ變後僧侶ヲ
シテ戸籍ヲ司ラセシヨリ彼レ皆檀家ノ多
少ニ依テ自ラ門地ヲ開キ氣勢ヲ張り
尸位素餐ニ流惜ス因テ上ニ陳スル如ク
其弊ヲ一洗シ彼ノ徒ヲシテ宗派ヲ論セス
混一二僧學校ヲ置キ同心戮力シ此六則ヲ

旨トシ始ニ普通學ヨリ智識ヲ開キ宇内ノ形勢ヲ知リ後ニ宗學ニ入リ人心ヲ和同シ以テ朝廷所嚮ノ新政ヲ感徹セシメハ縱令奸民黨有ツテ良民ヲ欺キ煽動セント欲スト雖モ亦施スニ術ナカラニ不然ハ僧侶モ遂ニ惜民ノ洞藪トナリ有名無實ニシテ真ニ國家ノ蠹賊ナラニ其尤能ヲ盡サシメ夫ヲシテ處ヲ得セシムルハ衆庶護保ノ專務ナラスヤ

六則

明辨國體 畏敬神祇 說諭倫理
預防異教 擴充智識 開導利用

僧學寮學科

- | | | |
|----|----|------|
| 第一 | 國學 | 令科數目 |
| 第二 | 漢學 | 令科數目 |
| 第三 | 洋學 | 令科數目 |
| 第四 | 宗學 | 令科數目 |

未
百三番

内防外拒以洋教ノ峻絶ニ玉ニコトク乞フ
建言 附 異教頑防略

福岡縣内

明蓮寺淡雲

内防外拒以テ洋教ヲ峻絶シ玉ヒコヲ乞フ建言

天主耶穌ノ教我國體妨害アルヲ煩辨シ須スレテ人ノ知ルトコ
ロナリ且彼教内天主耶穌希臘等各派區別ヲナレテ互相
仇視シ屢戦闘ニ及フ其蹤蹟不少豈可懼ノ甚キ可憂
ノ大ナルモノナラスヤ若我國內ニ恢張スルニ至ラハ帝ニ彼各派
爭鬭スルノミナラス神儒佛ノ徒亦彼ト抗撃スル其紛
擾止ムヘカラス近年洋教漸ク國內ニ傳播シ人民彼ニ惑
溺スル者已ニ十ヲ以テ計ヒ若復彼ニ數年ヲ假サハ其狂

燭燎原ノ勢ヲナシ終ニ奈何トモスヘカウサルニ至シ抑之ヲ
禦ヤ外カ各國ニ論諭スルニ洋教決テ

皇國ニ容ルヘカウサル所以ノ理ヲ以テ内チ規式ヲ定メ
教諭ヲ布キ以テ人民ヲ保護シ彼ヲ以テ誑惑ヲ施
得サリト名所以ノ策ヲ建テ内防外拒併行スルニ
非ニハ恐ルハ拒絶シ得ヘカウス臣自ラ狂癡ヲ測ラス
試ミ内防策ヲ建コト別冊ノ如シ草野ノ臣叨ニ大
事ヲ議ス固ヨリ僭越ノ罪重キヲ知ト雖モ憂國ノ

念黙止シエス敢テ鄙衷ヲ上ル懇切恐懼ノ至リ
堪ス誠惶誠恐昧死敬白

福岡縣内

辛未十月

明蓮寺淡雲稽首百拜

百部番

教義ヲ督スルノ一官ヲ設ケ玉ハシ
コトヲ請建言

島地黙齋

大正
正印
百部番

周防草野ノ臣 照雷 誠恐誠惶頓首謹言

凡ソ人依ル所ナク而後移ラス信スル所ナク而後惑ハス
若其依信スル所ナキ者ヲシテ移リ且ツ惑ハサラシメシ
トス難矣哉方今妖教ノ民ニ入ル日ニ一日ヨリモ熾ナリ
國衆ノ禍害之ヨリ大ナルハナク 朝野ノ疾感之

ヨリ甚キハナシ蓋シ勢ノ以テ過ムヘカラサル者アリト
イヘトモ抑而我シ自ラ牽ノ過ナキヲ得シヤ夫我ニ一教
ノ信スヘキアルトキハ外慕ノ念繇テ萌ス所ナシ我ニ一
定ノ依ル所ナキトキハ外誘ノ物以テ牽サルヲ得ス民ノ

蚩蚩固り道ノ邪正ヲ辨セス而奚ソ國ノ利害ヲ問ハン其
安スル所ニ順ヒ其危ハ所ニ背ク安スル所ハ之ヲ是トシ
背ク所ハ之ヲ非トス而我之ヲ安セシムルノ教ナク之ヲ
順ハシムルノ法ナキトナハ是非ノ相及セル滔滔彼ニ入
ル固り深ク咎ムヘキニ非ル也嗚呼是帝ニ勢ノ以テ過
ヘカラサル者トセン歟矣奚ソ我自牽ノ過ナカラサルニ
ヤ佛

皇國ニ在ル今有餘年宣布偏子カラサル所ナク歸崇至ラ
カ其所ナシ傳流ノ久キ時ニ弊害ナキニ非ストイヘトモ其

間々民心ヲ維持シ風化ヲ裨補スルモ亦尠シトセス排毀
ノ説起リシヨリ人其功罪ヲ甄タス撰ニ之ヲ一掃セント
欲シ而外之ヨリ甚キノ患アルヲ顧ミス内之ニ換ルノ教
ナキヲ審ニセス遂ニ民ヲシテ其依信スル所ヲ失ハシメ
而其自ラ歐テ祇教ニ入ラシメサル者幾希ナリ宣教ノ官
興リシヨリ今ニ三年臣未タ親ク其説ヲ聞ストイヘトモ
私ニ以為ク必ス儒佛ニ教ヲ假ラス直ニ

神聖ノ道ヲ教ユル者ナラン此誠ニ國體ノ嚮フ所理ニ於テ
ハ固り固然スル所ナシ只教化ノ用愚民ヲ導クカ為ニ

シテ率由ノ術習情ニ投スルヲ以テ主トスルトキハ其道
ノ純粹ナル偶々蠢愚ノ喜ヒサル所ニシテ其説ノ簡易
ナル亦却テ輕侮ノ心ヲ生シ而其事ノ新ニ興ル恐クハ未
タ信ヲ移スニ暇アラザラン蓋シ惟ルニ

神聖ノ道大也幽明ヲ諛子現未ヲ總ヘ物トシテ遺ス所ナク
事トシテ収メカルハナシ只其迹上古淳朴ノ時ニアリテ
而其道自ラ不言ノ間ニ存スルトキハ言説ノ教未タ備ラ
ス而メ勸誡ノ術未タ詳ナラス之ヲ道有テ而教ナシト云
ハシモ猶可ナルカ如シ苟モ性情彝倫ヲ以テ之ヲ諭シ

因果升沈ヲ以テ之ヲ導クニ非レハ將タ何ヲ以テカ説ン
トス而シテ宣布セント欲スル所ノ者ハ民ノ以テ信ヲ取
ル所ニ非ス民ノ信ヲ取ラント欲スル所ノ者ハトノ以テ
宣布スル所ニ非ス上下情殊ニシテ而所教效ナク趣嚮定
リ無クシテ外慕隨テ生ス昔人言ルアリ物必先腐而後蟲
生ト又云内氣虛而後外邪入ルト嗚呼後ニ此民ヲ祇教ノ
中ニ毆リ其生ヲ流離ノ際ニ終ラシムル而憫々ヘキニ非
スヤ是臣ノ深ク國家ノ為ニ憂テ我自ラ率ノ過アリト云
所以也昔者豊臣徳川ノ祇教ヲ待ツヤ之ヲ驅ルニ干戈ヲ

以テシ之ヲ處スルニ刑辟ヲ以テス威嚴ノ峻烈ナル海外
ナホ戰栗ス然而之ヲ教督スルニ佛ヲ以テシ之ヲ檢査ス
ルニ僧ヲ以テスル豈其威力之ヲ勅誅スルニ足ラス而僅
ニ援ヲ桑門ノ手ニ假ル者ナランヤ蓋シ以ルニ教ノ人心
ニ入ル兵威ノ能ク壓スル所ニ非ス禁令ノ能ク制スル所
ニ非ス毒ヲ逐ニ毒ヲ以テシ楸ヲ按クニ楸ヲ以テスルノ
術ニ由ラスンハ將タ何ヲ以テ力之ヲ攘ハンニ氏ノ為ス
所。茲ニ見ルコトアル歟夫レ當時ノ威嚴有テ當時ノ事
ヲ處スル猶且ツ此ノ如シ況ヤ今内外ノ形勢彼此ノ情態

昔日ニ同シカラサル天淵ナルトキハ之ヲ待ツ固リ干戈
ヲ以テスヘカラス之ヲ處スル亦刑辟ヲ以テスヘカラス
然而防之獨リ何ノ方ヲ以テセン嗚呼勢ノ此ニ至ル遂ニ
得テ防クヘカラサル者歟雖然其害ヲ知テ而之ヲ避ケス
之ヲ避ルノ方有テ之ヲ用ヒカルトキハ猶自ラ畫テ為サ
サルカ如シ是臣ノ深ク國家ノ為ニ惜テ而シ歎止スルニ忍
ヒサル所以也獨リ臣ノ之ヲ憂惜スルノミナラス凡ソ天
下ノ學ヲ稱スル者未タ曾テ之ヲ為メニ疾蹙セスンハア
ラス古来三學ノ相容レサル攻撃止ムニ時ナシ諸宗ノ相

闕ケル殆ト旗鼓ヲ交ヘリ耶蘓ノ事發リシヨリ三學相親
諸宗相盟フコト先ニ雙言視スル者ト固リ同日ノ形ニ非
ス他ナシ疾々所同シテ而憂ル所一ナレハナリ若禁令一
々セ弛ミ其教公行スルニ至ラハ先ノ相親ニ相盟ノ者合
從以テ之ヲ擯シ其紛紛擾擾セルヲ殆ト不測ノ憂ヲ醸サ
ン臣依テ以為ク今ノ人猶預防ニ志アリ今ノ民猶佛教ニ
習深ス

朝廷若^其教ノ信スヘキヲ表シ以テ其職ヲ盡サシメハ庶幾ク
湊々ノ患ヲ免レシタルニ方アラシ歟皇表ニハ聞ク浦上異

宗徒ノ畠山縣ニ謫セラレ、ヤ某僧之ヲ説テ悔悟セシム
後同縣^{。酸}暴寺ヲ合シ數百ノ僧侶ヲシテ一院ニ窘處セシメ
加ルニ彼徒ヲシテ亦此ニ同居セシム彼徒僧侶ノ窘究ヲ
見テ歎メ曰先ニハ某僧ノ懇諭ヲ聞カメテ天教ノ佛ニ加
カサルヲ領セリ今ヤ

官佛ヲ待ツ如此ナルトキハ佛亦不足信也果然則我寧口
先ノ天教ニ從ハント遂背反シテ回ラスト嗚呼是以テ少
ク蚩蚩ノ情ヲ察スルニ足レリ臣是以テ預防ノ術他ナシ
天教ノ信スヘキヲ表シ以テ且ノ用ル所タルコトヲ知ラ

シメンニハ如^ハスト或曰佛ハ西竺之教也

朝廷ノ用スヘキ所ニ非ス若此ヲ用ヒハ耶蘇ニ孰與レソト
臣ヲ以テ之ヲ見ルニ此レ今有餘年前ニムヘクシテ今ニ
論スヘキ所ニ非ス其行ル、已ニ久ク其重スル已ニ篤キ
トキハ是レ我ノ用ル所ニシテ而之ヲ禁シ之ヲ賤クハ固
リ今ノ計ニ非ル也然而之ヲ用テ用サルノ教ヲ壅レ之ヲ
置テ置リサルノ政ヲ施ス民ノ方嚮ニ惑フ所以ニシテ臣
未タ其說ヲ知ラサル也況ヤ仁義禮智漢土ニ昭ラス淨樂
我常空邦ニ出ス其教理固リ我ニ合メ民ノ之ヲ視ル未タ

曾テ西土ヲ以テ望マサレハ其教義ヲ正シ其規律ヲ新ニ
セハ則是我道ヲ明ニシ我政ヲ裨ル者ニテ何ソ必シモ之
ヲ外視スルコトヲセン果然^ハ今ノ儒ヲ督シテ今ノ民
ニ向ヒ今ノ教ヲ正フシテ今ノ政ヲ布キ民ヲシテ依定ス
ル所有テ信從スル所ニ安セシメハ之ヲ驅テ祇教ノ中ニ
入ラシメント欲スルモ得ヘリラスシテ外誘百端術ヲ乃
ミニスルモ未タ以テ懼レヲ為スニ足ラシ是誠ニ時務
ノ最モ先^ニスヘキ者ニシテ之ヲ行フ最モ易キ所也然而
政教ノ相離ルヘリヲカル固リ輪翼ノ如シ政權已ニ上ニ

アリ教柄豈獨リ下ニ屬スヘケンヤ且夫天下ノ寺院萬ヲ
以テ教ノヘク其僧侶マタ幾倍ナルヲ知ラス之カ規律ヲ
新ニシ之リ教義ヲ正ス固リ一大權カヲ持セスハ之ヲ
能ク濟スコトナクシテ其事ニ通シ其情ニ達スルニ非ン
ハ又恐クハ内ヲ竣ヘ難カラシメ曩ニハ寺院寮ノ設アリ今
ヤ一廢跡ヲ見ス曩ニハ宗規僧風釐正スヘキノ令アリ今
ヤ誰レカ之ヲ督スルヲ知ラス若キ是ニシテ日ヲ終ヘハ
教規何ノ日ニカ定ルコトヲ得シ而祇教何ノ日ニカ防ノ
コトヲ得ソヤ臣是以切ニ請フ

朝廷新ニ教義ヲ總フルノ一官ヲ興シ寺院ヲ管シ僧徒ヲ督
スルハ云ヲ待タス凡ソ天下ノ教タル管知セサル所ナク
督正セサル所ナク而專恣雜亂以テ國體ヲ傷ヒ

朝政ヲ妨クルノ害ナカラシメハ庶幾クハ上下情齊ク政教
相扶ノ域ニ至ラン嗚呼

皇政ノ隆ナル百度草ヲサルナク百事舉ヲサルナシ而教ノ
以テ政ニ配シ風化ヲ倡導シ民心ヲ維持スルモノニ於テ
釐正未タ其緒ニ著カサルモノ豈一大遺憾ナラスヤ若夫
秋教ノ害ニ至テハ深ク異日ニ恐ル、所有テ而臣實ニ之

ヲ言ニ恐ヒサル也臣狂愚敢テ自ラ測ラス叨ニ政教ヲ議
ス罪萬死ニ當レリ激切恐懼ノ至ニ堪ス臣默雷誠恐誠惶
昧死謹言

辛未

九月

山口縣内

爲地默雷誓首百拜

未

百三番

内防外拒以テ洋教ヲ峻絶シ玉ハシコトヲ乞フ

建言

附
異教預防略

福岡縣内

明蓮寺淡雲

内防外拒以テ洋教ヲ峻絶シ玉ハシコトヲ

乞フ建言

天主耶穌ノ教 吾 國體ニ妨害アルコト煩辯ヲ
須スシテ人ノ知ルトヨ也且ツ彼教内天主耶穌
希臘等各派區別ヲナシテ互相仇視シ屢戰鬪
ニ及フ其蹤蹟不少豈ニ可懼ノ甚キ可憂ノ大
ナルモノナラスヤ若 吾 國內ニ恢張スルニ至ラハ
當ニ彼各派爭鬪スルニナラス 神儒佛ノ徒亦
彼ト抗撃シ其紛擾止ムヘカラス近年洋教漸ク
國內ニ傳播シ人民彼ニ惑溺スル者已ニ千ヲ

以テ計ヘシ若復彼ニ數年ヲ假サハ其狂焰
燎原ノ勢ヲナシ終ニ奈何トモスヘカラサルニ至
ニ抑之ヲ禦ヤ外各國ニ論論スルニ洋教没テ
皇國ニ容ルヘカラサル所以ノ理ヲ以テ内規式
ヲ定メ教諭ヲ布キ以テ人民ヲ保護シ彼ヲシ
テ誑惑ヲ施得サラシムル所以ノ策ヲ建テ内防
外拒併行スルニ非ニハ恐ハ拒絶シ得ヘカラス
自ラ狂癡ヲ測ラス試ニ内防策ヲ建コト別冊
ノ如シ草野ノ臣叨ニ大事ヲ議ス固ヨリ僭越ノ
罪重キヲ知ルト雖憂國ノ念黙止シエス敢テ
勸表ヲ上ル懇切恐懼ノ至ニ堪ス誠惶誠恐昧
死敬白

辛未十月

福岡縣内

明蓮寺淡雲稽首百拜

宗教の沿革 日本国史の要
宗教の沿革 日本国史の要

末

百三番

異教預防略

筑前福岡
明蓮寺淡雲

夫レ國內衆民 神ニ歸セサレハ必ス佛ニ嚮フ是ノ
人ハヲ教育シ神佛ニ教相扶以テ之ヲ維持スルニ
非スニハ恐ハ異教誑惑ノ患免レカシ若強テ一
教ニ歸セシメント欲セハ帝ニ人ハヲ動搖スルノミナラ
ス防邪ノ益少カラシ故ニ更ニ神佛ニ教相扶防禦
スルノ策ヲ建ツ曰規式曰教諭ヲノニ科以テ衆民
ノ身心ヲ拘持セハ異教随入ノ地ナカラシ
規式

一氏子改宗門政ノ式ヲ嚴ニスヘキ事

一人生テ三十日必先ツ氏社ニ参シ氏子改ノ印札

ヲ受ケ次ニ檀那寺ニ詣シ宗門改ノ印札ヲ受
クヘシ死スレハ其印札ヲ社寺ニ收メヘシ

一男女冠笄婚姻等必ス社寺ニ告ケ行フヘシ
一他所及他管轄所ニ入嫁入子及移住等此社
寺彼社寺其印札ヲ取替ヘシ

一人ヲ二ノ印札須臾モ離スヘカラス

一旅行必ス社寺ニ告ケ發スヘシ

一客舎必ス二印札ヲ改テ後々宿セシムヘシ

一一年一度社寺共人々ノ印札ヲ検査スヘシ

一社寺検査簿年々其地方官ヘ納ムヘシ

一毎月朔望ヲ休日トシ朔日ニハ人々必其氏社ニ

参シ望日ニハ必其寺ニ詣スヘキ事

一社寺参詣人名ヲ認ムヘシ

一朔望ノ外社寺参詣ハ随意クルヘシ

一齋朔徒ノ刑ヲ定ムヘキ事

一向後新ニ邪徒ヲ出サハ其社務寺務及區長罰

アルヘキ事

一僧尼亦伊勢參宮ヲ許スヘキ事

一寺院亦神棚ヲ安置スヘキ事

教諭

一防邪ノ人材ヲ選擧スヘキ事

一官省中教導局ヲ置クヘキ事

専務ノ局ヲ置キ専任ノ人ヲ選擧スルニ非ニ
恐ニ防邪ノ實効得カタヤラシ

一神佛二教ヲ宣布スヘキ事

互相仇視セサルノ處置アルヘシ

一府縣共教官二三員ヲ置クヘキ事

府縣共典事ヲ置キ之ヲ掌ラシメテ可ナラシ

一教導局中巡察ヲ置キ時々各地巡察スヘキ事

一各地方教諭ノ人ヲ選用スヘキ事

一社寺共一月二會教諭スヘキ事

一朔望ノ外更ニ二ノ休日ヲ定メ教諭日トスヘシ

一教諭席其地官員一二人出席スヘシ

一地方一里ニ一教場ヲ置クヘシ

其地便宜ノ社寺ヲ用ヒテ可ナラシ

一二會ノ外各社各寺平常懇懇教諭スヘシ

一人民神佛歸嚮ハ其随意タルヘキ事

一教諭席神道ヲ説ク者ハ神職服ヲ着シ佛教ハ

僧服タルヘキ事

若強テ形服ヲ改メシムルトキハ衆人ノ心ヲ動シ
防邪ノ術少カラシ

以上預防策ヲ略論ス其施設ニ至テハ更ニ細
論アルヘシ若規式ヲ守ラス教諭ヲ受ケサル
徒ニ於テハ其罰ナリシハアルヘカラス

付六ツ所
其々々々々々

名を推し
その心アルノ文う陰

主ク又首
政府モ本者モ
文ヲ
左

氏与
オ

神佛

世

ハ

法

入

之

年

起

牧部

今般新者有^シ置^カ之^ニ從^テ來^ニ固有^ノ神^ノ佛^ノ
之^ヲ教^ヘ海^ニ之^ヲ義^ハ大^ニ前^ニ後^ニ對^シ世^ノ
者^ハ其^ノ所^ニ謂^フ不^レ可^レ云^フ者^ハ其^ノ意^ハ凡^ソク^ニ
也^ハ然^レ處^ニ初^ニ者^ハ其^ノ確^ニ元^ノ之^ヲ起^ル者^ハ今^ノ般
之^ヲ年^ノ規^ハ月^ノ之^ヲ其^ノ段^ハ之^ヲ其^ノ上^ニ之^ヲ教^ヘ法^ハ
在^ル之^ヲ教^ヘ導^ル之^ヲ任^ス之^ヲ政^ニ府^ノ之^ヲ知^ラス
本^ノ省^ニ之^ヲ其^ノ失^ヲ之^ヲ漏^ル之^ヲナ^ク一^ニ切^ニ彼^ノ年^ニ
付^テ之^ヲ其^ノ決^ス定^ス之^ヲ其^ノ成^ル居^ル者^ハ也^ハ其^ノ起^ル

孝の奉祀致す力能はる其之の實際
 上と施スに至る事大に其者に前記
 ノコトクニテハ未だ我に謂神道ヲ
 維持スル能ハス又之ヲ擴充スル能ハス
 如何とハ我神道ハ其の沈泊中人以上
 之ヲ聞ベシ中人以下之ヲ聞可ラス也
 其の然と云ふ一定ノ教法教義
 一モ存たナシ又神道ヲ主張スル者已リ

是トシ彼非トシヲ辨スル者ハ教ヲ統轄スル規模
 有ナシナシ一已ノ私欲私見ヲシテ神道トシ
 不知と遂ニ一異端ノ言ニ徇リ世用ニ供
 不能ハ佛法ハ之ト異ナリ正統統ハ教法
 教義完満なりヨリニ其ノ規則ヲ奉ニ
 彼無主收リ誤信セシメ其教誨者由
 至リ其政府知ラズハ有ハ其教誨者
 自適ニ付与シテ其布告ノ方法ヲ示ルトモ

孝
慈
弟

按

次

五

前ニ論じたり神道未ダ存、教法完備ス
永ノ伝ハモ原キラス之ヲ教師ニ委任シテ其
成立ヲ扶植セラル、遂ニ良道泯滅再ヒ不可
以振、大患アリ矣、神佛二道ノ系象法ヲ
石ニ刻シテ福セシ、存存神道、聖賢ノ如シ
キヲ以テ是ヲ基ケ、百官タルニ成立リ、扶植
セサレ、遂ニ繁シテ死ス、外前達ノ目的有リ
ナシ、佛法ヲ成人ノ如シ、父母盛ニ養フ、蒙ル

ナリ成立リ、自今ス、此勢カノ大小輕重常ニ此
況ヤ神道、我主體ノ所存祖系、造化ノ
所立也、百官ノ生勢微ニシテ救フ可キナルニ
似タリト名臣、臣ノ職分、豈ニ百官之ガ救済
ノ方ヲ求ルカ、此レ可シヤ、晏然拱手待ニ曰ク
此道不振、如何ス、ナシト、之ヲ度外ニ付、與
シテ可ナシ、耶夫、益後アリ、不可為ナシ、前
知ス、名臣、衆ヲ下サル、理ナシ、臣子ノ成敗

前ニ論じたり神道ニ未ダ在テ教法完備ス
 永ノ法ニモ厚キラス之ヲ教師ニ委任シテ其
 成立ヲ扶植スル時遂ニ其道泯滅再ヒ不可
 以松ノ大憲アリ夫レ神佛二道ノ系家法ヲ
 石公考リテ論ゼン所存ニ神道聖賢ノ如シ
 ナリトキ是ヲ權テ百官たるに成テ扶植
 セサレ遂ニ繁テ死テ外前達ノ目的有ル
 ナレ佛法成人ノ如シ父母盛衰後リ蒙ル

神道ノ方 拙ニ云フ

先著セリニテ後述スルニ
 山内神官ノ如キ且人民法
 内ニ定メ山内金と云フ
 事ニテハ神ノ即チ神官ニ
 一ニテ有ルニシテ其時官費
 神官ニ定メセリ
 中ニテハ未ダ習セノ人モ定メ
 部内ヲ統率スル多例ナリ
 且其人モ一官能ス
 一ニテ決メテハ少シ

此
 法
 則
 二
 神
 官
 一
 官
 能
 一
 官
 能
 一
 官
 能

一、
埃多、
...

...

...

改テ教師ニ付与スルノ前儀ヲ留後安シ我

神道ノ教法ヲ纂述シ書ニ採録シテ

聞見カラシメ父母ノ志子ヲ看護スルノ

思ヲシ政府モ之ヲ維持シ奉有モ此道ヲ

興隆スルヲ以テ徹然リ決志スル事

一、
...

決

神道ノ神、海、素

門、師、今、中、道、...

仙、子、ノ、信、...

仙、ハ、...

...

神皇正統記

ヲ天ニ任ス惟其可為ヲナス也亦未ダ
我皇爲地墜バ所憂ニ據者者ノ
結紐至ト至ラハルニ在ル已ル方日
改テ教師ニ付スルノ儀ヲ得安シ我
神道ノ教法ヲ纂述シ書ニ據リシラ
聞見カラレメ父母ノ志子ヲ看養タルノ
思ヲ付シ政ヲ付モ之ヲ維持シ我者モ此道ヲ
自隆タルヲ以テ徹カシテ致シ茲ニ
決意スル所度ハ決致一決然ニ決然
爲國由前儀ヲ重シテ右ノ意ニ決
定ミテ指揮至急ニ願也

神道ノ神ノ海ノ素
門師ノ志ノ中ノ儀
仙ノ志ノ依ル事トモ
仙ノ志ノ依ル事トモ

神皇正統記

神道の神、海、素
 門師、今、中、道、微、
 仙、子、依、如、ま、と、老、
 仙、を、塔、持、信、信、
 下、カ、あり、上、自由、
 多、ん、り、は、漏、み、
 官、其、う、信、官、信、と、
 中、と、と、身、信、
 主、も、下、カ、又、身、
 上、カ、あり、身、
 上、カ、あり、身、
 其、と、中、と、と、
 之、の、と、と、
 い、思、ふ、と、
 何、と、官、信、
 何、と、又、と、
 一、何、と、と、
 何、と、と、

日、り、又、と、

辛未十月

耶穌天主防禦建言

東京寄宿

淺草傳法院

諸宗惣代

小濱縣

前

空印寺瑞芝

考部

乍恐奉建言口上書

佛法流布千有餘年天下ノ人心浸染
罷在候間一朝御廢絶被遊候儀ハ於事
情難被為行奉存候方今耶蘇天主
ノ宗旨駁ヒ乎トシテ入ラレトスル際於
政府モ御心配被為在候ト奉恐察候
就テハ宣教等ノ御施設モ有之候得
共猶從來人心ニ浸染罷在候佛法ヲ以

テ其羽翼ト被為遊候ハ、隱然愚夫愚婦ノ心ヲ固メ彼ノ耶穌天主ナルモノニ不被惑候様仕度左候ハ、拙僧共千有餘年之

御國恩ヲ奉報機會ト奉存候就テハ宗法規律森然相立候様何卒諸宗ヲ相紡候

省寮御建被下置天下ノ諸宗御紡

御被成下度奉願候尤

皇國大教ノ御規則ハ諸宗共遵奉仕リ右御趣意ニ不相戾候様各其宗旨ヲ以テ人心ヲ教導仕候儀ニ御座候依之不憚忌諱奉建言候誠恐誠惶頓首謹言

辛未
十一月

天台宗

寛永寺
津梁院

徳門



浄土宗

傳通院山内

順光



同宗

同

念徹



浄土真宗

唯念寺

清讓



禪曹洞宗

龍穩寺

太堂



同宗

大雲寺

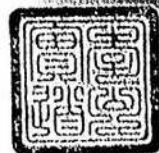
廬崎



同宗

聖岩寺

實道



禪曹洞宗

常林寺

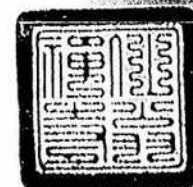
良道



同宗

仙翁寺

孝順



同宗

靈運院

百川



浄土真宗

佛光寺丹

妙覺寺

蓮藏



同宗

長安寺

東保



本願寺輪番

妙覺寺

楚教



同宗

時宗

日輪寺

寂元



禪曹洞宗

總寧寺

元良



真言宗

前大乘院

良如



天台宗

淺草寺衆徒

醫王院

真成



同宗

同

本龍院

真昭



同宗

福嚴院

靈源



浄土宗

回向院

行誠



天台宗

理教院

克存



日蓮宗

瑞輪寺

日誠



同宗

善立寺

日猷



同宗

宗延寺

日香



東海寺外

春雨庵

禅臨濟宗

義東



浄土真宗

東本願寺
西忍寺

義協



禪曹洞宗

松月院

大響



同宗

大善寺

海順



浄土宗

蓮光寺

慧隆



禪曹洞宗

長徳院

坦山



同宗

前空印寺

瑞芝



浄土宗

増上寺山内

専稱



同宗

同

念達



天台宗

行光坊

韶舜



辛未十一月

未
百十二番

耶穌天主防禦建言

東京寄宿

淺草

傳法院

諸宗惣代

小濱縣

前

空印寺瑞芝

乍恐奉建言口上書

佛法流布千有餘年天下ノ人心浸染
罷在候間一朝御廢絶被遊候儀ハ於事
情難被為行奉存候方今耶蘇天主ノ
宗旨駸々予トシテ入ラントスルノ際於

政府モ御心配被為在候ト奉恐察候
就テハ宣教等ノ御施設モ有之候得
共猶從來人心ニ浸染罷在候佛法ヲ以

テ其羽翼ト被為遊候ハ、隱然愚夫愚婦ノ心ヲ固メ彼ノ耶穌天主ナルモノニ不被惑候様仕度左候ハ、拙僧共千有餘年之

御國恩ヲ奉報機會ト奉存候就テハ宗法規律森然相立候様何卒諸宗ヲ相紗候

省察御建被下置天下ノ諸宗御紗

御被成下度奉願候尤

皇國大教ノ御規則ハ諸宗共遵奉仕リ右御趣意ニ不相戾候様各其宗旨ヲ以テ人心ヲ教導仕候儀ニ御座候依之不憚忌諱奉建言候誠恐誠惶頓首謹言

辛未十一月

寬永寺
津梁院

天台宗

徳門 印

傳通院山内

浄土宗 順光 印

同

同宗 念徹 印

唯念寺

浄土真宗 清讓 印

龍總寺

禪曹洞宗 太堂 印

大雲寺

同宗 廬矯 印

聖岩寺

同宗 實道 印

常林寺

禪曹洞宗 良道 印

仙翁寺

同宗 孝順 印

靈運院

禪曹洞宗

百川印

佛光寺
妙覺寺

淨土真宗

蓮藏印

長安寺

同宗

東保印

本願寺
妙覺寺

同宗

楚教印

日輪寺

時宗

寂元印

總寧寺

禪曹洞宗

元良印

前大乘院

真言宗

良如印

淺草寺
醫王院

天台宗

真成印

太政官

同

本龍院

天台宗 眞昭印

福嚴院

同宗 靈源印

圓向院

淨土宗 行誠印

理教院

天台宗 堯存印

瑞輪寺

日蓮宗 日誠印

善立寺

同宗 日猷印

宗延寺

同宗 日香印

東海寺内
春雨庵

禪臨濟宗 義東印

東本願寺内
西忍寺

浄土真宗
義協
印

松月院

禪曹洞宗
大郷音
印

大善寺

同宗
海順
印

蓮光寺

浄土宗
慧隆
印

長徳院

禪曹洞宗
坦山
印

前空印寺

同宗
瑞芝
印

増上寺山内

浄土宗
専稱
印

同

同宗
念達
印

大
改
言

太政官

行光坊

天台宗

韶舜印

大文